

看護部だより

# ひまわり



2012

2012年 1月  
発行責任者：山口圭子

Vol. 16

A HAPPY NEW YEAR ~今年も輝く一年に~

看護部長 緒方くみ子

お正月も休まず患者さんと病院を守っていただいた皆様に感謝致します。

今年も元気にこの新年を迎えたことにも感謝しましょう。

《輝ける銅はくすんだ金に勝てる》

箱根駿伝で昨年優勝し今年無冠に終わった早稲田大学の監督の言葉です。昨年15秒差で負けた東洋大は、記録を一秒伸ばすことなく全力で取り組み今年の総合優勝を勝ち取りました。

目標へ向かう人の目は輝いています。皆さんもこれからをどう生きるか考え、一歩上の手に届く目標に向かって輝く一年にしましょう。「あなたの誇り」一言で伝えられますか？一瞬一瞬の行動にその人のすべてが表現され患者さんとの間に一つのケアが生まれます。看護は常に真剣勝負です。そこから自分自身も感動を得られます。来年度もすでに糖尿病看護・リンパ浮腫指導技術者等認定を目標として行動を起こしている人がいます。知識・技術・感性を高め質の高い看護を目指しましょう。その為にはできる限りの支援をしたいと思っています。

今年もよろしくお願い致します。



講演会

11/25 災害看護「災害時の心のケア」

講師：水垂瑞枝氏

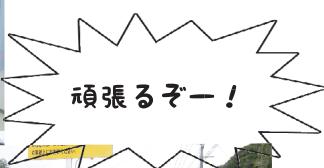


第2回目は災害による心の問題と対応というテーマで行われました。被災された方への心のケアはもちろんですが、講演の中では救援に当たる看護師も隠れた被災者であり、そのストレス処理も重要であると話されました。

今回の東日本大震災で実際に救援に当たった方や日航機墜落事故の救援に従事された方の体験談、そして救援中・後の心のケアについて具体的に話を聞くことができました。東日本大震災の際は、被災者が運ばれてくる病院の中に、救援に当たるスタッフのためのリラクゼーションルームなどが設けられていました。また帰還後は十分な休養がとれるよう勤務調整が行われており、ここ数年で救援に当たる人たちへの配慮も進んできているようです。

いつ、どこで災害が起るか分かりません。いつ、自分が救援者として被災地へ行くか分かりません。日頃のシミュレーションや、訓練による心構えが重要であると講演を受けて強く感じました。講演に参加された方はこれからのことを考える機会とし、参加されなかった方は、災害看護に関するDVDを購入してもらいましたので是非ご覧ください。(長元)

## 第31回いぶすき菜の花マラソン



指宿市で1/8に行われた“菜の花マラソン”では、看護部・連携室・企画情報管理室メンバー11名が参加し、お揃いのピンクのTシャツで軽快に42.195kmを完走…完歩？  
頑張りました！(久保)

Tシャツには  
石部院長のイラストが…！！





# 教育研修レポート

## スタートイング

11/15 SP（模擬患者対応）研修

研修目的、研修の進め方の説明を受け2名のSPの方々を紹介、緊張した中で事例を2例、1事例につき2名ずつ対応してもらいました。

SPの方からも良い意見が多く聞かれました。話を聞くとする態度や感情的にならず、話ができていたと思います。緊張していたため、声に元気がなかったり、うまく言葉が選べなかつたなど、本人達からの反省もありました。

専門職として自信をもって伝えること、患者は不安を持って入院しているので、一緒に不安になってはいけない。患者からの言葉より何か目標や目的などを一緒に見つけることができたのではないかなど、対応後考えさせられる研修でした。

自己のコミュニケーション技術を振り返り、より良い看護者としての対応とはどのようなものなのかについて考える良い機会になったのではないでしょうか。(幸得)



12/6 KYT

講師：城ノ下医療安全管理者

今回の研修ではKYT(危険・予知・訓練)についての基礎について学びました。

それぞれが事前に撮影していた「危険であると思う箇所」について写真を提示し、グループワークを行いました。どのような危険が潜んでいるのか“危険ストーリー”を具体的に示し、それに対しての対策・目標を立てて、最後は指差し・呼称で確認を行いました。

人間はミスを犯すものです。今回の研修で学んだ事を活かし、誤判断・誤操作・誤作業を防ぐことができるよう声を出して確認を行うことを日々心がけていきたいと思います。(中園)



## ウォーキング

12/8 プリセプターシップ

講師：平木副主任



プリセプターシップについての講義から始まり、グループワークでの自分が新人看護師だった頃のプリセプターの良かったこと、悪かったことなど話し合いながらの振り返りを行いました。

その後フィッシュを用いて、自分がどんなプリセプターになりたいか、各グループで模造紙に色とりどりの飾りつけをグループで工夫されていました。

模造紙は管理棟2階の女子更衣室の前に張り出してありますので是非一度ご覧になって下さい。

次年度は、今回研修を受けた方々の多くがプリセプターになる予定です。研修後のレポートを見ると、プリセプターになることへの不安もあるようですが、新人さんと一緒に成長したいなどの意見も書かれています。病棟全体での応援をよろしくお願いします。(楓園)



## ホップ

11/8 看護研究（データの統計処理・分析、論文のまとめ方）

講師：堂脇、関口顧問

今年度のホップ研修は看護研究について学んでいます。今回は「データの統計処理・分析について」と「効果的な発表の仕方について」の講義がありました。統計の基礎的な部分についての講義でしたがなかなか難しく、メンバーから沢山の質問がありました。

パワーポイントは色々な機会に作成して使用していますが、作成の注意点や効果的なパワーポイントの作成方法などについて改めて学ぶ事ができました。

今回学んだ事をより良い講義や発表を行うために役立てていけたらと思います。(中園)

## ジャンプ

### 11/24 「医療サービス評価～日本病院機能評価を用いて～」 講師：関口顧問

サービスとは何か、構成要素やサービスの品質基準、サービス担当者の五つの基本原則など、私達医療者が普段行っている業務を振り返りながら学習。その後、医療の質について、評価方法や質の改善方法、医療の質の3つのアプローチ・3要素などを学びました。最後に、ISOや日本医療機能評価機構について実際の評価基準等を使用し学習しました。

平成25年度は、当院も病院機能評価を受審する予定です。その際今回研修を受けられた方が先頭に立って機能評価を受けられるといいですね。(吉永)

## ステップ

### 12/13 看護研究発表

発表の内容も、内服や(術前後の)訪問、離床についてなど日頃自分たちが関わることの多い業務についての発表で興味深く、聞くことができました。

また、外来の業務量の調査なども日頃病棟しか経験のない私にとっては外来での業務の多さなど改めて知る機会となりました。

また、研究発表後の講評はいろいろな視点から客観的に分析されており、聞くことで評価・考察についての考え方なども勉強になりました。

看護研究のまとめをされた方長い間大変だったと思います。また、講評をされた方もお疲れ様でした。(榎園)



## 院内S-QUE研修1000' Eナース

### 11/16 リンパ浮腫ケア

#### ～リンパ浮腫予防指導における看護実践～

看護を行っていく中で浮腫やリンパ浮腫のある患者と多く関わっていますが、予防指導や患者・家族からの質問に対して戸惑った経験はありませんか？

今回の研修内容を見てリンパ浮腫の予防指導のポイントや基礎知識などを学ぶことができました。

また、実際のリンパ浮腫の写真や早期発見のポイント、患者自身が観察を行いやすい項目などを教えてもらい分かりやすかったです。今回の学びを今後の看護に活かせるよう頑張っていきたいと思います。(成塚)

### 11/2 早期離床につなげる周手術期看護 ～体位管理・ドレーン管理など～

この講義を実際に見て、早期離床に対する理解が深まりました。私が所属している病棟が外科であり、術後の患者さんを担当することも多くあります。日頃患者さんと関わる中でもちょっとしたことが筋力の増強につながることも知ることができました。

この研修の中には廃用障害を予防するためにできる工夫が実際の例として示されているので理解しやすかったです。(福山由夏)

### 10/19 呼吸・循環・代謝から理解する周手術期看護

手術期看護の目標は、安全に効果的で質の高いケア(知識と技術を駆使)を提供することです。この目標達成のため知識と技術の向上は重要です。

術中看護として重要な保温の知識として体温調節機能、麻酔による体温への影響、低体温が及ぼす術後への影響など説明されています。今、行っている保温に対するケアが大変重要である事の根拠づけができ、さらに工夫して保温に努めたいと思いました。

当手術室でも腹臥位手術での皮膚損傷が時々起こっていますが、研修内容には褥瘡の好発部位と神経損傷部位や術後の観察の視点などありました。予防のためには、なぜ起こるのかという基礎知識がなくてはいけません。

その他にも周手術期看護を行うのに必要な基礎知識をしっかりと学ぶことができます。もう知っているという方もいるとは思いますが、振り返り改めて気づくこともあるかと思います。是非見てみてください。(長元)

## 第16回日本看護研究学会九州・沖縄学術集会に参加して

手術室 村尾智子師長

11月12日に大分県立看護科学大学において学術集会が開催され参加しました。私たちが日頃活用している看護のエビデンスは誰かがつくるものではなく自分たちでつくるものであり、看護研究は研究のためにおこなうものではなく、「エビデンスをつくる、つたえる、つかう」ためにあります。

これまでの看護研究は手法がアンケートやインタビューなどが主でしたが、これからは看護業務の拡充に伴い、新たな看護手法として血液データを自由に使えるようになるかもしれません。また、看護・人間工学という人間と器械の関係を研究する分野ができ、測定、操作行動などの研究が始まっているようです。看護研究はそういったオリジナリティーが強く、社会への貢献度の高さが求められており、これからのが看護研究のあり方について知る機会にもなりました。

## マイブーム

## 回復リハビリ病棟 宮内陽子

私の2歳10か月になる娘のマイブームを紹介します。

娘は女の子だというのに青色を好み、ショベルカー・クレーン車・新幹線など男の子が好むものが大好きです。お店でも、道路でも、テレビでも、クレーン車や新幹線が目に入るとテンションが上がり「〇〇の好きな新幹線(クレーン車)かっこいい。」と叫んでいます。

そのため、喜んだ笑顔を見るために私達親は、クレーン車や新幹線を見つけると「〇〇、新幹線だよ。」と探しては言っています。娘はもちろん大喜びです。そんな娘は最近「新幹線乗りたい」と言います。いつか、家族で新幹線の旅行ができたらなど話しています。

男の子のものを好む反面、庭に植えたチューリップの鉢を見ては「〇〇のチューリップが咲くよ。きれいだうね。」など女の子だなーと思わせてくれる時もあります。どんな子に成長していくのか今から楽しみです。



### 専門コース

### 緩和ケア研修 “自己決定を支える” (12/2開催)

4東病棟 片平広美主任

前回研修の喪失模擬体験からいろいろな物事を誰にも相談せず、一人で決定することの苦しさ、虚しさを感じました。がん患者は治療経過の中で喪失感を感じながら自己決定を行っていきます。その度に「これからどうなるの」「今までの治療は無駄だったの」「自分は生きていても仕方がない」という気持ちを抱きながら治療を決定しているのではないか、また病状説明時に「自分は大丈夫」という雰囲気を装っている患者においても、自分がキャッチできないだけでスピリチュアルペインを抱いていたのではないかでしょうか。

バッドニュースや治療についての説明がある時に看護師も参加し、その後の気持ちを受け止めたり、揺れ動く気持ちにより添い患者が「自分は一人ぼっちじゃない。話を聞いてくれたり、一緒に考えてくれる看護師がいる」と感じができるよう、日々対応できたらと強く感じました。時間がないから患者対応が出来ないではなく、スタッフに協力してもらって病状説明後に10分でも20分でも話をして、大切にしているという看護師の心を伝えたいと考えています。

### 平成23年度鹿児島県糖尿病臨床技能向上研修

8西病棟 松元美智子主任

「罹患率が高く、要介護要因でもある糖尿病分野において、質の高い看護ができる看護師を育成する。」という目的で開催された糖尿病臨床技能向上研修会に参加させていただきました。

糖尿病認定看護師・薬剤師・栄養士・運動指導協議会の方など様々な分野における糖尿病看護・ケア・治療法・糖尿病患者及び家族の理解・支援技術など実演を通して学ぶことができました。

糖尿病患者は一生、糖尿病に向かいながら生活していくかもしれません。初期には自覚症状が乏しいため病識を持ちにくく、また色々なライフスタイルの変更を余儀なくされるストレスや分かってはいるけどできない、続けられないという葛藤などを抱きながら生活されている現状があります。

そこで私たち看護側が患者に支援する際のポイントとして以下の4点がありました。

### 編集後記

新しい年を迎ましたが、皆さん今年の目標や計画をたてましたか？ 今年は穏やかな年になってほしいなと思うのですが、気になることが…。 鹿児島地方気象台の発表によると昨年の桜島の爆発回数は996回で、1955年に観測をはじめてから過去最多の記録になっています。そして、今年は年明け早々14日間で100回に到達。これは、過去最速のペースです。98年前の1914年(大正3年)1月の大噴火によって桜島は大隅半島と陸続きになっていますが、この際に消費したマグマの約8割分が再蓄積され、着実に次の大規模噴火の準備が進行していると言われています。地震・津波…そして桜島にも要注意！

